

## 黒笹慈幾氏講演会の概要

～地域の魅力を再発見 ～長浜・御豊瀬・浦戸地域の活性化について～

日時：平成30年6月3日（日） 14時00分～16時10分

場所：南海中学校中舎2階大ホール

### ◆浦戸湾の自然と歴史の再評価を！

- ・浦戸湾は「高知の江戸前」。豊かな魚資源、長い歴史文化、港町の豊かな暮らしがある。
- ・高知の人は必ず「昔はこんなものじゃなかった」、「今は酷い」と言うが、今の状態でも十分素晴らしい。

### ◆陸からの発想で3地区共通の課題と打開策を考える

- ・3地区それぞれに深い歴史と文化を持つが、情報発信の有機的なつながりがない。
- ⇒観光という導線で有機的につなげられないか。

<観光コンテンツ>

長 浜：若宮八幡宮、かまぼこ工場、切通しとトンネル、長浜小学校

御豊瀬：山崎干物、魚市場、巖島神社、御豊瀬小学校へのトンネル、お遍路連絡船

浦 戸：浦戸小学校跡、観海亭、稲荷大明神、魚市場、受法寺

### ◆コンテンツを活かす2つの展開

#### ①海からのアプローチ（海発想の視点）

- ・今までの観光導線は「陸上発想」。バスから見える景色は他のところと対して変わりはないが、船から見える景色は他のところとは全く違う。

⇒浦戸と御豊瀬の観光拠点を船でつなぐ、長浜へ船＋徒歩の新しい流れを作る。

#### ※国土交通省が考えている防波堤利用の新ガイドライン※

- ・これまでは、防波堤を立ち入り禁止にしていたが、開放して釣りに使えないかという考えに変化。
- ・防波堤開放のモデル地区を全国に作る流れになり、高知(浦戸湾)をモデル地区にどうかという話も。

#### ②食の記憶

- ・観光では「食の記憶」が一番強く、リピートの種になる（日本人・外国人共通）。

<提案>浦戸・御豊瀬・長浜「イートイン・プロジェクト」

⇒船と徒歩を組み合わせたイートインめぐり

（浦戸のじゃこ、御豊瀬のひもの、長浜のじゃこ天をつまみ食い）

## ◆地域再生、地域活性化の担い手をどう育成するか

- ・高知市から県外への転出超過数は増加傾向（特に20～24歳代が顕著）。  
⇒地域の記憶がないまま大人になると、かえってくることはない。  
⇒幼少期の自然体験がいざというときに帰ってきてくれる子どもを作る。
- ・地域の担い手としての子どもたちの脳に「地域の記憶」をどう植えこむか。  
⇒一番有効なのは自然体験。子ども（小～中学校）の間でないと無理。  
⇒3地区共通のキーワードは「海体験」（地引網体験、漁業と市場体験、ひもの作り体験など）  
⇒子どもだけでなく、インバウンドにも国内観光にも使える自然体験メニューになる。

## ◆行政・他人頼みではない「みんなのプロジェクト」にする

- ・「みんなのプロジェクト」があると地域力は確実にアップする。  
⇒「みんなのプロジェクトを作るプロジェクト」が必要。
- ・大人たちがいまやるべきことは、子どもたちの「心のふるさと」づくり。  
⇒学校で、地域で、自然体験の機会を提供する。

例) 仁淀川の移動水族館（地元で獲れる魚を水槽で展示）  
越知町のキャンプイベント（魚獲り&調理体験）

### 講演会の様子

